



## どうして「日本」というようになったの

### 日出るところ……日の本

日本が「日本」という名前になったのは、かなり古い時期だと思われます。約1400年前の607年に、聖徳太子が小野妹子を、中国を統一した隋の国に、使いとして送った(遣隋使)とき、「日出るところの天子」ということばを使っています。「日出るところ、日の本」という意味は、やがては日本という国名になったと思われます。実際に「日本」と国名が決められたのは、それから約95年後の701年に、「大宝律令」という法律が作られたときです。

### はじめは「やまと」ということばが

日本という国の名も、最初は「大八洲(おおやしま)」とか「豊葦原瑞穂国(とよあしはらみずほのくに)」などといっていました。また、今の奈良県にあたる大和地方を地盤にした大和朝廷が勢力をのびたとき、「やまと」ということばが広まり、大宝律令の日本も初めは「やまと」とか「ひのもと」とよばれていました。中国では日本を「倭」とよんでいたので、日本でも「倭」と書いて「やまと」といったりしていました。奈良時代や平安時代には「にほむ」といいましたが、室町時代になって「にっぽん」とよぶようになりました。(監修・保岡 孝之)

